

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4070401627		
法人名	社会福祉法人 鷹羽会		
事業所名	グループホーム 花みずき		
所在地	福岡県北九州市小倉北区篠崎1丁目9番6号 (電話)093-592-3605		
自己評価作成日	令和元年10月22日	評価結果確定日	令和2年1月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

同じ敷地内に同一法人が運営する軽費老人ホーム、通所介護が併設しており、軽費老人ホームに関しては41年という歴史により地域に根指した活動ができており地域活動や行事等一緒に活動する事も多くその際入居している施設の垣根を越えて助け合いも自然に生まれ心地よい環境となっている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kai gokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和元年11月20日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、同一法人が運営する経費老人ホームと連携し、地域に根差した活動が出来ている。また、地域の方々と馴染みの関係で協力体制もできている。職員同士の連携も非常にとれており、お互いが補いあい協力した介護が出来ているため、ご利用者の表情も穏やかに過ごされている。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼、GH会議、全体会議時は必ず理念、方針を唱和している。また職場の教養も毎日唱和し理念等と照らし合わせながら考えを述べ実践に繋げている。	法人合同朝礼や、グループホーム朝礼で法人の理念、グループホームの理念を唱和している。職員は実践に繋げる為、寄り添う介護を大切にしながら、利用者の笑顔が出るためにはどうすればいいかを共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の敬老会の設営準備や神社の清掃活動を行っている。また地区の子ども神輿も事業所に来てくれており休憩場所として園内ホールを提供しており子ども達との交流を楽しんでいる。	地域の美化の日に利用者と一緒に、事業所周辺の清掃活動をしている。近隣の篠崎神社から子ども神輿が事業所に来てくれたり、定期的に清掃活動を行い交流がある。同一法人の保育園園児と2ヵ月に1回交流があったり、保育園の運動会に参加している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の敬老会時に軽費、DS、GHの特色、入居条件を記したパンフレットを配布し施設見学や相談は随時可能である事を伝え必要な支援に繋げている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動内容や入居者の現状報告、事故報告の内容や不潔行為等ホームにて対応方法を説明しもっと良い方法がないか相談をしたり客観的意見を頂きケアに繋げている。	運営推進会議は2ヶ月に1回行い、事業所の取り組み内容、財政報告などを行っている。また、困っている事についてアドバイスをいただいたりして、意見交換を行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で包括支援センターの方に質問や相談をしている。またグループホーム協議会で市との意見交換会があり実情を伝える機会がある。	グループホーム協議会で、市との意見交換会があり、人材不足の問題、外国人労働者の受け入れ、身体拘束防止についての質問、相談を行ったり、意見交換をしている。事業所としても個別にご利用者の受け入れについての相談をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回身体拘束廃止委員会会議を行っており同月のグループホーム会議にて内容を報告している。また玄関の施錠は行っておらず出入り口のチャイム音、職員同士で声を掛けあうことで離脱事故を未然に防ぐ様努めている。現在は、不潔行為に対する対応方法を学んでいる。	日中は玄関に施錠はしていない。近所の方や家族から何故カギをかけないのか、安全のためにはカギをかけた方がいいのではという意見をもらうが、説明し、理解を得ている。また、身体拘束廃止についての勉強会を3ヶ月に1回行い、最近では不潔行為のある方への対応方法を考え、皆で共有した。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されないよう注意を払い、防止に努めている	虐待のニュースや事例をもとに発生した要因を考える研修を行っており身近に起こりやすく認識が必要である事を学び予防に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者がいる為後見人の方に情報を教えて頂いたり年1回研修にて学んでいる。また家族には、入居時に必ず説明をしている。	権利擁護に関する制度について、家族には、契約時と必要性のある時に説明している。また、利用者のうち2名が、成年後見制度を利用しており、その後見人の方から説明を受け、職員教育に活かしている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	要介護3になると特養の申し込みが出来る事や看取りを行っておらずどういう状態になったらホームでの暮らしが難しくなるのか細やかに説明し同意書を頂いている。状況に応じて家族に再度説明している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	9月に家族交流会にて外食会を行いご家族の想いや意見を聞く事ができた。また面会時には必ず訪室し近況報告等行い、話の中から汲み取れる要望等は、スタッフが情報共有し実践できるよう努めている。	普段の会話から、利用者の希望や意見を聞き、運営に取り入れるようにしている。また、誕生日には、利用者の希望を叶えるようにしており、外出にお寿司を食べに行ったりした。敬老会の後にはご利用者、家族、職員と一緒に食事会を行う。その際、利用者の昔話を聞いたり、家族が利用者をととても大切にしている気持ちが分かって、職員のモチベーション向上につながっている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH会議やスタッフ会議の際に意見交換をしており管理者が代表者に提案し繋げるパターンが多い。	グループホーム会議を行っており、職員の気付きやアイデアを取り入れている。例えば、車椅子に手を挟まないように工夫するなど改善に役立っている。管理者は、職員が意見を出しやすいように、聞く機会を多く設けている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	雇用形態の改善は代表者に掛け合っている。出来るだけ希望休や年休が取れる様調整しリフレッシュできる環境作りに取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員募集、採用については特に制限はなく行っている。定年後も体力、気力があれば雇用を継続している。体力や得意分野に応じて仕事内容を勘案し無理なく仕事ができる様配慮している。	採用選考では、性別、年齢等で制限していない。定年後でも雇用を継続し、活躍している職員もいる。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員への人権教育、啓発活動に関する取り組みについては年1回研修にて学んでいる。	人権教育、啓発活動についての研修を行い、差別をしない意識を身に付けるように工夫している。今後はLGBTの方なども、身近になる事も考えられるため、意識向上に努めている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は、外部研修に行った職員が講師となりGH会議後に行っている。その際ホーム内でのケアを振り返る事ができる。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県GH協議会に所属しており研修等年間計画に沿って参加した他施設職員との交流ができています。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の想いが話しやすい環境を作り不安を取り除けるよう時間をかけて信頼を得る様努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用するにあたり生活歴、入居する経緯を聞き取り家族の想いをしっかり受け止めながら本人と家族の関係が良い方向に向かうよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取りによりサービス内容を細分化しスタッフミーティングにより共通サービス、個別サービスを考慮し個々にあったサービスを導き出すよう努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として料理やしきたり、人との上手な付き合い方等学ぶ点が多くスタッフが教えてもらいながら一緒に出来る事により関係を深め共存している事を感じて頂けるよう努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族交流会にて外食会を行い生活の楽しみの一つである食事時間を共有することにより生活の一部を知ってもらうとともに、以前の家族との関わりや本人の様子を窺い知る事ができ想いを汲み取る姿勢がスタッフ間で一段と大きなものとなっている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの場所や人について家族から聞き取ったり日頃から地名や場所等を会話の中にちりばめ入居者にどういった暮らしをしていたか自ら語られる場面を作るよう努めている。	入所される前に利用していたホームヘルパーさんが、事業所まで会いに来てくれた事もある。以前住んでいた家を見に行きながら、地域の話や、以前あったお店の話をしたりして、会話を楽しんでいる。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の希望や相性を配慮しながら利用者同士の和が繋がるよう支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後も相談等応じる事を家族に伝えている。契約終了後も家族からの相談の電話があったり亡くなった際に連絡を頂く事もある。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意思の疎通が難しい利用者には、表情で読み取ったりまた家族に聞き取りを行い本人の想いに添えられる様努めている。レクリエーション等枠にとらわれず散歩等個々の対応を行い気持ちを引き出せる環境を作りを行っている。	家族から生活歴や入所前のデイサービスの利用状況などを聞き取り、利用者からは日々の会話や表情から希望や意向を汲み取っている。特に、朝の散歩のときに会話が弾み、色々な意見が出やすいので、その時に聞くことが多い。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	独り暮らしを長年されて共同生活が苦手な方など個々の思いや洞察力を鍛えながら支援の方向性を見極める材料としている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	加齢に伴う体力低下など休憩を挟んで無理のない個々のスタイルを尊重しつつメリハリのある活動を織り交ぜている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族には利用者の状況を説明し意向を尋ねてケアプランに反映させている。GH会議では処遇について話し合い気付きを情報共有し現状に合った計画を作成し実践している。	ケアプランは6ヶ月に1回見直しをし、利用者・家族・かかりつけ医等の話を聞いている。日々気が付いたことは朝礼・終礼などで意見を出し合い、職員の意見情報は共有できており、職員会議で検討している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子などケース記録に記録し朝礼や終礼時も報告し合い、更に話し合いが必要な内容はGH会議で課題として挙げている。また、毎日モニタリング実施表にチェックし確認を行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	支援の内容が柔軟に対応できる様他施設での対処法や法人内の朝礼時の倫理本の一読をヒントに凝り固まった昔の考え方を払拭できるチャンスがありアイデアが出てくる事が多くなっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	時々参拝に行く近所の神社で清掃活動を行い「いつもお願いばかりしているからお礼をしなくては」と感謝の気持ちと清掃後の達成感を感じる事ができ地域活動を通して支え合う支援ができる様努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人の希望によりかかりつけ医、緊急搬送先を決めている。状態変化時や事故の際は家族、かかりつけ医に報告し指示を仰いでいる。	かかりつけ医は、利用者家族の希望通りにしている。家族の付き添いの場合、医師に意見・症状・状況を伝えてもらい、返事をもらっている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回看護師が勤務しており介護業務も行う為相互理解が得られ適切な受診に繋がっている。また隣接しているDS、軽費老人ホームにも看護師が勤務している為支援体制は整っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は病状把握に努める為訪問し認知症が急速に進行しない様退院のタイミングを病院と協議しながら支援している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所内で重度化、終末期の方針、対応について入居前、入居時に家族に説明し（看取りを行っていない事）同意書を頂いている。また入居後状態の変化等に対し、再度説明し家族や本人の意向を確認したうえで次施設についての説明を行い支援する事を伝えている。	契約時の方針を説明し、同意書に記名・捺印をもらっている。要介護3以上になった場合は、再度説明を行っている。看取り期・終末期については、話し合いを行い、対応している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に急変時等の対処法、AEDの使用訓練を行い、救急車を要請後の動き等も確認し合っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年消防署立会いの下消防訓練を行い指導に基づき避難訓練を行っている。また定期的に消防設備の立会いがあり避難訓練の動作確認、災害時の心得等利用者と共に学んでいる。町内の災害協力協定書を交わしている。	避難訓練は、年に3回行い、日中を2回、夜間を1回行った。夜間想定避難訓練は、消防署立会いで行い、消火訓練を併せて行った。備蓄品については、調理室に水や缶詰・ご飯などを準備されていた。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	妄想や作話等否定はせず、利用者の気持ちに寄り添うよう努めている。生活歴等職員が把握し得意分野の活動を中心に言葉かけを行い役割を持ってもらえる様支援している。	利用者への声掛けは、他者に聞こえないように気をつけて行っている。利用者の居室などで個別に話をしている。また、申し送りをする際、そばに利用者が多いことが多いため、誰だか悟られないように工夫をしている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中で本人の希望や要望を尋ねたり家族に入居する前の本人の好みを聞いたり、必要時は選択肢をいくつか出したうえで選んでもらう様支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴やレクリエーション等拒まれる時は、想いを傾聴したり時間をおいての言葉かけ、スタッフが交代して雰囲気を変えたりと利用者にあった支援方法を試みる事もあるが基本的には無理強いせず本人のペースに沿っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回訪問美容院があり本人や家族に希望する髪型を美容師に伝えたり、入浴の着替えや外出や行事の際洋服と一緒に選んでいる。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段は参加が難しい利用者が調理に参加出来るメニューを設定し一緒に作る機会を設けている。毎日野菜の切り込み、盛り付け、食器洗い等一緒にしている。また月1回給食会議にて嗜好等の報告し月1回選択食が設定されている。BBQや外食会、行事食は特に喜ばれている。	利用者と職員と一緒に準備・片づけを行っている。給食会議では利用者の希望を伝えることができる為、献立に取り入れている。年に2回程度外食行事を行い、喜ばれている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が立てた献立であり食事の形態は、利用者個々で必要に応じて刻みやミキサー食とりみ等対応している。糖尿食等に関しては量の調整を行っている。食事、水分摂取量はチェック表に記入しこまめにチェックしている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に言葉かけ、誘導、介助と個々に合わせた口腔ケアを行っている。毎年歯科検診を受けており治療の必要な方を早期発見できている。治療が必要な時は、訪問歯科を利用している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	常時オムツの方は居らず、日中排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。尿意や便意をすべてではないが訴えられるようになった方がいる。	排泄パターンは把握しており、日中はおむつを使用している方がいない為、定期・随時のトイレ誘導で対応している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の運動や飲水量を意識し、出来るだけ日中に排便できる様、便秘薬の量、服薬時間を調整している。排便チェックにて便秘の方を確認している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	重度化によりそれぞれの体面も考慮しつつ週2回の入浴を行っている。希望が言いやすい環境を作り希望がある時は、回数に関係なく入浴して頂いている。また拒まれる利用者には、対応するスタッフが交代し言葉かけをしたり次の日に変更したりと利用者に合わせて支援を行っている。	毎日お風呂を沸かしている。週2回は入浴できるようにし、入浴を拒否される方には、無理強いせず翌日にしたり、入浴を希望される方には、希望に応じて入浴していただく等、臨機応変に対応している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体操やウォーキングと身体を動かす機会を作りつつ体調や加齢に伴う身体的低下を把握し、昼食後状態に応じて利用者希望も含め休憩時間を設けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容に変更があると家族に変更理由を説明している。また痛み止めや眠剤の量が体重の変化や効きすぎる等変化がある時は、かかりつけ医に報告し指示を仰いでいる。減薬にも取り組んでおり手順を踏んで実施している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意分野を最大限に活かせるよう裁縫や調理、カラオケ等自然な生活の流れで発揮している。またスタッフの先生役でもある。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良い時は園周辺を散策し雨天時は隣接施設内を回っている。誕生月には本人が希望する外出等支援を行っている。	気候の良い時期には毎朝事業所の周りを散歩している。雨天の場合は、隣接する施設のスロープを歩いて運動をしている。誕生月には、外食やショッピングなど希望する外出支援を行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額お小遣いを持っている利用者があり移動パン屋にて買う事がある。また預り金を把握して残金があるか確認する利用者もいてその都度帳簿を提示している。家族には収支報告書を毎月提示し同意書を頂いている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている利用者が時折掛け方が分からなくなる事があり介助にて家族に連絡している。またホームの電話はコードレスである為自室で親族と話している。毎年賀状はできるだけ本人の直筆で家族に出している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間では季節の花やタペストリーを飾り天窓からの自然光を取り入れ自然な形で生活音食事作りの匂いに包まれている。またオゾン空気清浄器を設置しており健康に配慮している。	共同スペースは、天窓から自然光が差し込んでいる。壁には行事の写真や利用者・職員が制作した季節の作品が飾られ、唱歌などの音楽が流れており、心地よい空間になっている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少人数用のテーブルやソファなど自由に行き来する事ができる様配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや食器等愛用していた品々を持ち込んで頂き、家族の写真や作品を飾ったり又は家族がレイアウトする事もあり自分の部屋として落ち着いた生活ができる様支援している。	使い慣れたタンスや家族と行事に参加した写真が飾られていた。職員は会話が広げられるような空間作りをしていると話され、華美にはならず、家庭的雰囲気のある空間になっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールや居室等手すりが設置されており椅子やタンスも手すりの代替として動線に配置し安全かつ過介護にならない様試行錯誤しながら自立に向けた環境を整えている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)		①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
			○	③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		①毎日ある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)		①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
			○	③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
			○	③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
			○	③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
			○	③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
			○	③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
			○	③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		